



弘前医療福祉大学紀要

*Journal of Hirosaki University
of
Health and Welfare*

第4巻 第1号
2013年3月発行

弘前医療福祉大紀要
J. Hirosaki Univ. Health Welf.

弘前医療福祉大学紀要編集委員会

目 次

紀要発行に寄せて	弘前医療福祉大学学長 下 田 肇	
[総 説]	松果体腫瘍と発達・思春期	
	1. 種々の型の松果体腫瘍、とくに胚細胞腫瘍	
	加地 隆	1
[原 著]	ラフォラ病の脳病理：大脳皮質神経回路網内におけるポリグルコサン凝集体(Lafora小体)の局在	
	吉村 教暉	13
[原 著]	精神障害者および精神保健福祉に対する地域住民の思いに関する記述的研究	
	板山 稔、高田絵理子、田中 留伊	25
[研究報告]	GGCX 遺伝子多型がオステオカルシンのGla化と骨密度に及ぼす影響	
	— 第一報 PCR-SSP法によるGGCX 遺伝子多型判定試験の検討 —	
	長谷川秀隆、神口 浩、村上 大介、松木 秀明	33
[研究報告]	人工内耳を装着している子どもをもつ養育者の思い	
	— 聴覚障害、治療・訓練、育児について —	
	田中 克枝、神蘭 洋子、氏田 直子、成田 智	41
[研究ノート]	東日本大震災後の災害被災者支援に関する学生の意識調査	
	板垣喜代子、矢嶋 和江、北林 司、藤原 健一、戸来 陸雄、相馬 陽子	49
[教育実践報告]	看護学生の臨地実習における学習実態調査	
	— 「慢性期看護学(成人)実習Ⅰ」を経験した2年次生の学習状況の実際 —	
	村上 大介、成田 智、長谷川秀隆、塩谷 千晶、矢嶋 和江	55
紀要規程・投稿要項		63
編集後記		
紀要編集委員会委員		

弘前医療福祉大学紀要規程

(目的)

第1条 弘前医療福祉大学(以下「本学」という)における紀要の名称を「弘前医療福祉大学紀要」Journal of Hirosaki University of Health and Welfare (ISSN 2185-0550)とし、以下「紀要」という。

紀要は本学における研究成果発表を目的として、定期的に刊行される。

(発刊)

第2条 紀要の発刊は原則として年1回とし、本学紀要編集委員会(以下「委員会」という)がその任にあたる。委員会の委員は教授会の議を経て選出され、任期は原則として2年とする。

2 紀要は、発刊前年度の10月1日から発刊年度の9月30日までに投稿された論文を一号として刊行する。

3 発刊期日は原則として発刊年度の末日までとする。

(投稿資格者)

第3条 紀要への投稿資格者は、次のとおりとする。

- 1) 本学専任教員
- 2) 第一号の共同研究者。但し、筆頭著者は本学専任教員とする。
- 3) その他、委員会が適切と認めた者

(受付・査読・採否)

第4条 投稿原稿は他誌に未掲載で且つ投稿中ではない論文に限る。

2 投稿原稿は各学科の委員を経て随時受け付けられ、委員会は預かり証を発行する。

3 預かった論文のうち短報以外はすべて第三者に査読される。査読後、委員会は投稿論文の種類・内容・体裁について修正を求めることがある。

4 論文の採否は委員会において決定され、その結果は書面で通知される。

(著作権)

第5条 掲載論文の著作権は本学に帰属し、論文の電子化は了承されたものとする。

但し著者が当該論文を利用する場合は本学の許諾を必要としない。

(経費負担)

第6条 投稿原稿が規定の枚数を超過した分については、著者の負担とする。

2 初校の際には別刷の必要部数を委員会に申告するものとする。

3 別刷は10部まで共通経費負担とし、それを越えた分は著者負担とする。

(倫理的配慮)

第7条 投稿論文は、倫理的配慮がなされ、且つその旨が本文中に明記されなければならない。

(その他)

第8条 論文の投稿要項に関しては、委員会が別に定める。

附則 本規程は2009年7月16日から施行する。

本規程は2013年5月21日から施行する。

弘前医療福祉大学紀要投稿要項

1. 投稿論文

投稿論文は他誌に未掲載で且つ投稿中ではない和文及び英文の総説、論説、原著、研究報告、研究ノート、短報、その他とし、随時受け付ける。

2. 論文の種類

他誌に未掲載で投稿中ではない以下①-⑦の論文を受け付ける。

尚、①-⑤は査読があり、⑥⑦は査読なしとする。

- ① 総説：ある主題に関連した研究の解説、総括
- ② 論説：主題に関する理論の構築、展望、提言
- ③ 原著：独創的な研究により、新しい知見、理論を示した論文
- ④ 研究報告：研究上の問題提起、興味深い事実や実態・事例・症例に関する論文
- ⑤ 研究ノート：論文としては未整理であるが、すぐに知らせる意義のある研究
- ⑥ 短報：教育実践報告、研修報告、国際学会、セミナー報告
- ⑦ その他：委員会が必要と認めたもの

3. 投稿資格者

- 1) 本学専任教員
- 2) 1) の共同研究者
- 3) その他 委員会が適切と認めた者

4. 倫理的配慮

人および動物を対象にする研究では、倫理的に配慮し、その旨を本文中に明記する。

研究が適切に行われたことを示すため、「本研究は弘前医療福祉大学研究倫理規程に沿って行われた」、英語論文の場合は“The study was performed in accordance with the Rules for Ethics of Study, Hirosaki University of Health and Welfare.”と文中、または文末に明記する。

執筆・投稿要領

1. 原稿の構成と表記

- 1) 原稿はA4版、10ポイントで1枚につき40字(英字・数字は半角)×40行 横書きとする。

原著、研究報告、総説、論説は10枚(16000字)以内とし、研究ノート、短報、その他は5枚(8000字)以内とする。但し、図表1枚は800字(半枚)分に数えるものとする。欧文の場合にはA4版、ダブルスペースで1枚につき26行でタイプする。

欧文は必ずnative speakerによる校閲を受けたものであること。

- 2) 表紙には論文題名、著者名、所属および所在地(希望するならe-mail アドレスも)を和文と欧文の両方でそれぞれ明記する。さらに本文枚数(引用文献、要旨を含む)、図、表、写真、図表の説明文などの枚数を記載し、最後に論文の種類:「原著」(例)のように明記する。2枚目には600字以内の和文要旨とキーワード3-5語、3枚目には300語以内の英文要旨とkeywords 3-5語を記す。

- 3) 図表の使用は最小限にとどめ、「図1」、「表1」、「写真1」等 それぞれの通し番号をつけ、本文とは別に一括する。

これらの挿入希望場所を本文原稿右余白にそれぞれ指定する。図、表、写真については印刷時の大きさを明記する(例:原寸、70%、50%など)。

- 4) 外国の人名、地名に原語を用いるほか、叙述中の外国語にはできるだけ訳語をつける。
- 5) 注は脚注として最小限にとどめる。

2. 文献記載の様式

- 1) 引用文献は、本文の引用箇所の肩に1)-3)と表すか、又は引用箇所の文末に(第1著者の姓、発刊西暦年)で表し、最後に一括して引用順又はアルファベット順に掲げる。

- 2) 参考文献は、最後に一括して著者名のアルファベット順に記載する。
- 3) 引用・参考文献の記載方法・順序
 - 〈雑誌〉著者名：表題名、雑誌名、巻（号）：頁－頁、発行年
 - 〈単行本〉著者名：論文題名、書名（版表示）、編者名、頁－頁、発行地：出版社、発行年
 - 〈訳本〉著者名：論文題名、書名（版表示）、編者名、訳者名、頁－頁、発行地：出版社、発行年
3. 投稿の際の提出書類
 - 1) 原稿：表紙、和文要旨、英文要旨、本文、図表
（総説・論説・原著・研究報告・研究ノート・短報 ともに1部、査読を要するものについてはコピーを2部提出する）
 - 2) 紀要原稿提出表（大学共有ファイル内）：連絡先（氏名、住所、電話番号、メールアドレス）と別刷希望部数を記入する。
 - 3) フロッピーディスクまたはCD（1枚）；ソフトはワードとし、ファイル名を「本文」「和文要旨」「英文要旨」「図1」などとする。但し、提出は論文受理後とする。
4. その他
 - 1) 著者校正は原則として一校までとする。校正時の大幅な追加、修正は原則として認めない。
 - 2) 別刷は10部まで共通経費による負担とする。

編 集 後 記

弘前医療福祉大学紀要編集委員会
委員長 吉村教暉

ここに本学紀要第4巻をお届けします。掲載論文の内訳は総説1、原著2、研究報告2、研究ノート1、実践報告1の計7編です。後学期は毎年外部施設での実習指導等で特に多忙のところ、今年は生憎厳冬の大雪で大変でしたことと思います。また国試対策、卒論指導等々本当に多忙の毎日でしたことでしょう。その中で平素の研究成果を論文にまとめ投稿された著者の皆さんと、それを支えて頂いた教職員の皆さんに厚く御礼申し上げます。

あの3.11から丁度2年が経ちました。その被災地へ何度も出向いての活動経験からそれを明日の学生教育に生かそうとする論文も今回の掲載論文の中にあります。被災地の皆様に十分な復興と真のやすらぎが一日も早く訪れますよう祈念いたします。

本学はこの春、最初の卒業生と最初の医療専門職の人材を社会に送りだします。本学での研究に裏付けられた教育によって、ケア医療を通して地域社会に幅広く貢献できる温かで誠実な専門職の誕生が期待されます。そして彼らが地域に根差し、それぞれの職場で笑顔で活動するとき、本当の意味での地域貢献が実現されることとなります。

本学で、本学教員により、医療・福祉の研究が益々活発に展開され、それが本学の末長い発展に繋がる日の来ることを念じつつ、紀要編集委員会は常時原稿を受け付けております。各位の力作をお待ちしています。

弘前医療福祉大学
紀要編集委員会

委員長 吉村教暉
副委員長 小山睦美
委員 三浦秀春
委員 佐藤厚子

Journal of Hirosaki University of Health and Welfare

弘前医療福祉大学紀要

第4巻 第1号

平成25年3月29日発行

編集・発行 〒036-8102 弘前市小比内3-18-1
弘前医療福祉大学内 紀要編集委員会
TEL: 0172-27-1001

印刷所 〒036-8061 弘前市神田4-4-5
やまと印刷株式会社
TEL: 0172-34-4111 FAX: 0172-36-3299

Contents

[Review]

Pineal tumors — development and puberty

1. Various types of pineal tumors, especially germ cell tumors

Takashi Kachi 1

[Original]

Brain pathology of Lafora disease: localization of polyglucosan aggregations (Lafora bodies) within neuronal networks of the cerebral cortex

Noriaki Yoshimura 13

[Original]

Descriptive study on thoughts of local residents toward mentally handicapped people and mental health and welfare

Minoru Itayama, Eriko Takada, Rui Tanaka 25

[Report]

Effect of polymorphisms in the gamma-glutamyl carboxylase gene *GGCX* on gamma-carboxylation of osteocalcin and bone mineral density: PCR-SSP-based genotyping

Hidetaka Hasegawa, Hiroshi Kamiguchi, Daisuke Murakami, Hideaki Matsuki 33

[Report]

The feeling of guardians who take care of children with cochlea implants

—On hearing impairment, treatment, training and childrearing—

Katsue Tanaka, Yoko Kamizono, Naoko Ujita, Satoru Narita 41

[Note]

Survey of students on disaster victims after the Great East Japan Earthquake

Kiyoko Itagaki, Kazue Yajima, Tsukasa Kitabayashi, Kenichi Fujiwara, Mutsuo Herai, Yoko soma 49

[Educational Practice Report]

The actual learning situation of 2nd-year nursing students during clinical training in chronic nursing I (adults)

Daisuke Murakami, Satoru Narita, Hidetaka Hasegawa, Chiaki Shioya, Kazue Yajima 55